



# 美しい音色を持ち、楽に操作できる ウィルソン

## ・TA4111LRB & 今込治 (トロンボーン奏者)

アンサンブルに、ビッグバンドにと幅広いフィールドで活躍する今込治さんに、現在お使いのウィルソンのトロンボーンについてお話をうかがった。

—主になんか活動をされていますか。

**今込** トロンボーンクォルテット・クラールは、ほぼ毎月集まってリハーサルしています(本番は3月2日@いわき/3月5日@東京)。他にもスイス音楽を演奏するアムスレ・ヨードルクヴァンテットや、金管五重奏とピアノと打楽器を中心にしたメランジェ合奏団などにも参加しています。また、大友良英スペシャルビッグバンドと大友良英ニュージャズクインテットに所属してフリージャズの世界にも足を突っ込んでいます。

—ウィルソンを使うようになったのは?

**今込** 最初に師匠である栗田雅勝先生にちよつと吹かせてもらったときから、なんとなく気に入ってしまいました。数年後に改めて試奏したとき、

その吹きやすさと音色に一目惚れして、使い始めました。ウィルソンのユーフォニアムはその豊かな音色が印象的ですが、トロンボーンもやはり美しい音色を持っていて、楽に操作できるというよさがあります。特に私が愛用しているTA4111LRBはゴールドブラス・ベルで、

その吹きやすさと音色に一目惚れして、使い始めました。ウィルソンのユーフォニアムはその豊かな音色が印象的ですが、トロンボーンもやはり美しい音色を持っていて、楽に操作できるというよさがあります。特に私が愛用しているTA4111LRBはゴールドブラス・ベルで、

ppからffまで、低音域から高音域までそれぞれに合わせた音色が出しやすく、またシチュエーションに合った音色が出しやすいということが今の楽器を使い続けている理由でもあります。

**今込** 最後に読者にアドバイスを。トロンボーンと言えばハモニーですが、ハモるためには音程だけでなく音の圧力や響かせる方向性、そして音楽の方向性などがそろっている必要があります。よい人間関係も必要かもしれませんが、周囲としっかりハモって、音楽を一杯楽しんでください!



### 今込 治 (いまごめ・おさむ)

東京藝術大学卒業。現在、トロンボーンクォルテット・クラール、横浜シンフォニエッタ、大友良英スペシャルビッグバンド、大友良英ニュージャズクインテット、山下洋輔スペシャルビッグバンド、メランジェ合奏団、などのメンバー。上野学園大学講師を務める。

愛用のウィルソン TA4111LRB (¥770,000) は、気密性を高め、楕円のロータリーポートの採用で空気の流れを理想的にしたというロタックスバルブシステムを採用。ハンドハンマードのゴールドブラス製ワンピース・ベルを持つ。



### ウィルソン TA411LYB-C ¥1,045,000

イエローブラスのワンピース・ハンドハンマード・ベルを持ち、息の通り道がスムーズな形状かつ、断面積が一定という特長があるカイデックシステムが採用されたテナーバス。



### ウィルソン TA551LYB ¥1,078,000

ハンドハンマード、ワンピースのイエローブラス・ベルのバストロンボーン。ロタックスバルブX2を採用。

ウィルソンのTbについてはこちら



※価格はすべて税込で、2024年1月時点のものとなります。



PROFESSIONAL BRASS

# トロンボーン本来の音色を表現できる エックスオー

## ・1236L-T & 棚田和彦 (群馬交響楽団 首席トロンボーン奏者)

全員がエックスオートロンボーンを使用するジャパン・エックスオートロンボーン・クォルテット(以下、XOクォルテット)の二員である棚田和彦さんにインタビュー。

—XOクォルテットはどんな団体ですか。

**棚田** お互いを信頼しあっている仲間と言えると思います。「彼になら任せられる」「彼にならついていける」「彼ならついてきてくれる」。そういう信賴関係が成立しているメンバーだと思います。

—XOというブランドの魅力はどこにありますか。  
**棚田** 特に音色の明るさが際立ちます。音の立ち上りのレスポンスのよさ、意のままの音色表現、トロンボーン以外の楽器との調和。それらを兼ね備えています。

—今お使いの楽器は?

**棚田** 1236L-Tという、アキシヤルフロー・バルブを採用した楽器です。F管を使っている際の音抜けのよさだけでなく、オープン時の吹奏感が、F管を装着していないテナートロンボーンに限りなく近いです。そういった意味で

トロンボーン本来の音色を表現するのに長けている楽器だと思っています。

—全員が楽器をXOでそろえていることのメリットは感じますか。

**棚田** 同じブランドでそろえている意味はともも大きいと思っています。たとえば混じり気のない美しいハモニーを奏する男声合唱と同じように、楽器が本来持っている音色、音の指向性、到達性の統一感はとても大切だと感じています。最後に、読者へのアドバイスをお願いします。

**棚田** まず、トロンボーンを好きになってください。そうすればきっとたくさん練習するようになり、できることが増えて楽しくなります。と同時に、できないことが浮き彫りになるのです。そうなったときがチャンスで、それを克服するために勉強したり、レッスンを受けてヒントを得たりして自分の技量を上げ、引き出しを増やしていけばトロンボーンがさらに好きになるはずです。まずは懂れるプレイヤーの生の音を目の前で聴くこと。XOクォルテットだけとは言いません。時間を惜しまず演奏会場に足を運んでみてください。



### 棚田和彦 (たなだ・かずひこ)

東京藝術大学卒業。シエナ・ウィンド・オーケストラを経て、現在群馬交響楽団首席トロンボーン奏者。ジャパン・エックスオートロンボーン・クォルテットのメンバー。小諸高等学校音楽科、高崎経済大学附属高等学校非常勤講師。

愛用のXO 1236L-T (¥649,000) はアキシヤルフロー・バルブを採用し、F管をオープンラップとしたモデルだ。



### XO 1236L ¥440,000

通常のロータリーとコンベンショナルなF管レイアウトを採用するモデル。着脱式のマウスパイプが3本付属しているのは各モデル共通だ。



### XO 1236L-O ¥440,000

ロータリーバルブとオープンラップを組み合わせたモデル。付属するマウスパイプは長さの異なるイエローブラス2本とスターリングシルバー。

XOのTbについてはこちら



※価格はすべて税込で、2024年1月時点のものとなります。